

## 第 25 回 行政改革推進会議 議事要旨

### 【開催日時】

平成 28 年 11 月 28 日（月）17：35～17：55

### 【場所】

官邸 4 階大会議室

### 【出席者】

議 長	安倍 晋三	内閣総理大臣
議長代理	麻生 太郎	副総理
副 議 長	山本 幸三	行政改革担当大臣
	高市 早苗	総務大臣（代理 原田 憲治 総務副大臣）
構 成 員	秋池 玲子	ボストンコンサルティンググループシニア・パートナー& マネージング・ディレクター
	大塚 陸毅	東日本旅客鉄道株式会社相談役
	河村 小百合	株式会社日本総合研究所調査部上席主任研究員
	小林 栄三	伊藤忠商事株式会社会長
	田中 弥生	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構教授
	土居 丈朗	慶應義塾大学経済学部教授
	畠中 誠二郎	元中央大学教授
	森田 朗	国立社会保障・人口問題研究所長
	渡 文明	J Xホールディングス株式会社名誉顧問

**【議事次第】**

- 1 開会
- 2 議事  
平成 28 年秋の年次公開検証等の取りまとめ
- 3 議長挨拶
- 4 閉会

**【配布資料】**

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| 資料 1 | 平成 28 年秋の年次公開検証の取りまとめ（案） |
| 資料 2 | 行政改革推進会議による指摘（通告）（案）     |
| 資料 3 | 基金の再点検について（案）            |
| 資料 4 | 特別会計に関する検討の結果の取りまとめ（案）   |

## 【議事の経過】

- 山本行政改革担当大臣の司会により、議事が進行した。はじめに、平成 28 年秋の年次公開検証等の取りまとめについて、山本大臣から報告があった。その後、議論に移った。

(各議員の主な発言)

- ・ 「大阪レビュー」は、東京以外の地域で行われたということ、国立大学を拠点として実施したということ、テレビ会議で霞が関と繋いだという 3 点について、初めての試みだった。身近にレビューを感じていただくことができたとともに、若い人たちが手を挙げて参加することができた。また、大学を拠点とし、テレビ会議を行ったことにより、コストを抑えつつ広報・発信の効果が上がるという点で、行政改革らしい会議だった。
- ・ 上下水道分野におけるPFI事業は進捗が遅れており、速やかな成功事例を作ることが喫緊の課題。今回の「大阪レビュー」では上下水道分野のPFI採用の検討をしている大阪市を招き、中身の濃い議論ができたが、国の強い覚悟がないと動かない問題が多く横たわっている。是非、総理の強いリーダーシップのもとで推進していただきたい。
- ・ 総理が表明された福島新エネ社会構想は、関係者からは大変期待されている。例えば、福島で作った水素を東京オリンピック・パラリンピック等で使用することにより、福島の復興及び我が国の水素先端技術を世界に大きくアピールする機会になれば良いと思う。
- ・ 「大阪レビュー」は、大学のキャンパスで行われ、若い人にも関心を持っていただく大変有意義な機会になった。国民が関心を持っているのは、税金の使われ方であろうと思うが、今後、高校や大学等での公開検証を広げていくことも手段の一つ。
- ・ 予算全体の 3 割超を占めている社会保障費の問題について、既に大変厳しい状況だが、国民に事実を丁寧に伝えることも非常に大事。行政事業のレビューの公開検証でも取り上げてみてはいかがか。
- ・ 行政レビューの公開検証が、各府省が推進したい事業のお墨付きを得る場ならないよう、納税者の視点に立って議論し、運営していただきたい。
- ・ 地方でのレビューの開催は非常に良かったが、若い方の興味が少ない点が課題であり、来年以降、知恵を絞らなければいけないと感じた。
- ・ 適切な成果目標や成果指標を設定するといった、当たり前のことできてきたという感じがする。PDCAをきちっと回すということは必須であり、引き続き厳しくやっていただきたい。

- ・ PFI等を民間がテイクオーバーする際に、様々な事項が「見える化」されることが非常に大事。PFI等の官民の分担を議論する際には、「見える化」に尽力いただければと思う。
  - ・ 第2次安倍内閣以降、毎年「秋のレビュー」を継続して行っており、国民からの政府への信頼が深まっている。最近では、行政の無駄があるのではないかということや国民が言わなくなってきている印象があり、行政改革を継続していることが実を結んでいると思う。来年も引き続き取り組んでいただきたい。
  - ・ 今回は政権の重要課題を取り上げた点が意義深かった。レビューは公開で予算を切るショーのようなところがあったが、政権交代後に方針転換があり、今回は重要課題の質を上げる議論ができた。意義がある事業に予算を移し、個々の事業及び全体のポートフォリオの質を上げ、早期の成果につながるという良い取組に進化している。
  - ・ 「大阪レビュー」について、広報・広聴効果が抜群であり、財政運営に対して国民の参加意識を高める上で良い取組だった。来年以降も、大都市で「あなたの町にレビューがやってくる」というような感じで開催できれば良いと思う。
  - ・ 「秋のレビュー」の女性活躍のテーマについて、当日の議論で担当省庁とかみ合わない部分が一部あった。取りまとめがしっかりと実行されるよう、御指導をお願いしたい。
  - ・ ある政策がある目的を達成するために、どのようなプロセスを経るのかという論理を検証していく必要がある。政策を実施する際の効果が見えないと、PDCAのPが明確にならず、そのようなPDCAサイクルは効果がない。その論理を検証するためには、マイナンバー制度を活用し、データに基づく政策の論議をしていただければと思う。
- 関連して、麻生副総理から、以下のとおり発言があった。

（麻生副総理）

- ・ 今回の取りまとめについては、有識者の方々から、予算の重点化・効率化を進める上で有益な御指摘を頂いたものと考えている。
  - ・ 財務省としても、行政改革推進本部事務局と連携し、今回の取りまとめで指摘された事項について、各府省と共に検討を行い、その結果を平成29年度予算編成に当たって、予算の重点化・効率化に活用していきたいと考えている。
- 最後に、安倍内閣総理大臣より、以下のとおり発言があった。

（安倍内閣総理大臣）

- ・ 委員の皆様におかれては、安倍内閣発足以来4度目となる秋の年次公開検証に御協力

いただき、感謝する。

- ・ 国民の皆様にご負担いただく税金が、無駄な歳出や、優先順位が低い施策に使われるといった批判は絶対に招かないようにしていかなければならない。また、政策の現場で実際の効果が向上するよう、不断の改善が必要である。
- ・ 本日、山本大臣から秋の年次公開検証における指摘事項について報告があったが、これらはいずれも重要なものであり、麻生副総理からも発言があったとおり、予算編成に的確に反映するとともに、更に事業の改善に取り組んでまいりたい。
- ・ また、本日委員の皆様から御発言いただいた点についても、しっかりと受け止めて、今後の政策運営に当たってまいりたい。
- ・ 特に今回は、地方・大阪でレビュー行った意義について、皆様から御紹介があった。事務局は大変かもしれないが、次回も地方で立候補するところがあると思うので、是非次回も地方での開催を検討することは、国民の行革に対する正しい認識、関心を高めていく上でも有意義ではないかと思う。
- ・ 委員の皆様におかれては、引き続き御協力をお願いしたい。

(以上)

(文責：行政改革推進本部事務局 速報のため事後修正の可能性あり)